様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２２年５月２５日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）
研究期間：２００８年～２００９年
課題番号：２０８２０００２
研究課題名（和文）機能的形態統語論によるスラブ諸語類型研究：所有性の意味範疇をめぐって
研究課題名（英文）The Functional Approach to the Typology of Slavic Languages: Research in the Semantic Category of Possessivity

研究代表者
野町　素己（NOMACHI MOTOKI）
北海道大学・スラブ研究センター・准教授
研究者番号：５０５１３２５６

研究成果の概要（和文）：
本研究では、スラヴ諸語における所有性の概念を実現する言語構造の構造的、意味的分析を行った。言語類型論の分析理論（特に文法化理論）を踏まえ、中でもこれまで分析がなされてこなかったカシュブ語に関し、所有構文から派生する二つの統語構造である複合時制および受動態について、言語接触論、類型論的な視点から、スラヴ諸語全体を踏まえた上で、その構造的、意味的な相互関係を記述・分析した。

研究成果の概要（英文）：
In this research project, I analyzed syntactic structures with the possessive meaning in Slavic languages from a functional perspective. Based on the theories of grammaticalization and language contact, as well as on the material from most of the Slavic languages, I managed to ascertain a formal continuum and semantic correlations between some syntactic patterns, in particular the possessive construction, the *have*-perfect and the recipient passive, especially in Kashubian.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	1,320,000	396,000	1,716,000
2009 年度	1,160,000	348,000	1,508,000
年度			
年度			
年度			
総　計	2,480,000	744,000	3,224,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：言語学・言語学
キーワード：統語論、意味論、言語類型論、スラブ語、機能文法

１．研究開始当初の背景

(1) 分析理論の理論的

本研究では、出発点となる意味カテゴリーの一つとして「所有性」は、人類に普遍的な概念で、人間が認知する対象間の関係のうち、最も基本的かつ重要な概念の一つである。しかし、従来の研究は「所有性」という概念そのものに踏み込むとなく、一機能として命名・分類することで済ませてきたことが大きな問題点であった。また、意味カテゴリーの実現形である言語形式においても、その属性が一様ではなく、必ずその中心をなす典型的な例から周辺的な例まで連続的な性質を持つが、その相互関係、あるいはその階層構造については言及されてこなかった。現在研究が特に進んでいる認知言語学的アプローチにおいても、「所有性」については、多数の相互に矛盾する定義が与えられていることからも、その重要性かつ複雑さは明らかであり、認知言語学の各学派の定義は、同じプロトタイプ理論を用いているにもかかわらず、全く異なるなど、依然十分に研究の余地がある分野である。

（２）分析材料の背景

形態統語論研究のアプローチとして、言語形式が担う機能を研究する(a)「構造的アプローチ（形から意味へ）」と、所与の機能の言語形式的実現を研究する(b)「機能的アプローチ（意味から形へ）」が挙げられる。スラブ語研究においては、伝統的に(a)のアプローチによる記述・分析が圧倒的であり、(b)のアプローチによる研究は進んでいるとはいえ、その蓄積は少ないのが現状である。さらに類型論的に重要なデータとなる諸言語の方言や、文法分析では殆ど分析されることがない、いわゆるスラヴ・ミクロ文語の機能的分析は目下皆無であるといってよい。したがって、これらの言語データの類型論的な位置づけも望まれている。

２．研究の目的

本研究は、普遍的意味カテゴリーの一つである「所有性」および隣接的意味カテゴリーを分析の出発点とした、機能的アプローチによるスラブ諸語形態統語論の類型論的研究である。

研究対象とする言語は、スラブ諸語のうち、特にロシア語（東スラブ語）、セルビア（クロアチア）語（南スラブ語）、ポーランド語（西スラブ語）の文語（標準語）および方言が軸となっている。

この研究では個々のスラブ語学研究への貢献を念頭に置きながら、従来の音声学・音韻論による分類とは異なった、文法と機能という点からみた、新たなスラブ諸語の分類および各スラブ語の類型論的な特性を明らかにすることを目的としている。

３．研究の方法

研究の方法は、先行研究、既存の分析理論を踏まえた上で、本研究に相応しい分析理論の構築すること、そしてテクスト資料およびインフォーマントから提供された言語資料を検証し、上の分析理論の枠組みに照らし合わせて分析するという手法をとった。

初年度は上述の「研究目的」に記したうち、特に「所有性」とその隣接カテゴリー

の定義と記述の理論的研究を中心に行った。また、それと同時に、言語材料の収集（テクストおよびインフォーマント調査)、さらにそれらの収集した資料の整理、記述と分析も開始した。

次年度は、前期に前年度のインフォーマントと調査で残った疑問点やさらなる質問リストを作成して対面調査を行った。後期は、前年度の理論的研究成果を背景にした、言語資料の記述および分析を中心とした研究をすすめ、国内外の学会において研究発表を行い、そこでの議論に基づき、論文の執筆を行い、一部の成果を公表するに至った。

４．研究成果

本研究では、研究目的で言及した諸言語のデータを用いた研究としての成果を挙げたが、中でも特筆すべき成果として指摘できるのは、これまで形態統語論のレベルによる記述･分析が十分なされてこなかった、スラヴ・ミクロ文語の一つであるカシュブ語（方言）に関する研究である。

所有構文から派生する構造と考えられる二つの統語構造（複合時制および受動態）について、機能的な記述を行ったが、その際に言語接触論、言語類型論からえられた知見を生かし分析・記述を行った点が重要である。カシュブ語の記述は、伝統的に音声・音韻論、形態論、語彙研究に重きが置かれており、当該構文の記述・分析はスラブ語学において全く新しい試みであった。また、機能的な視点による分析は、少数話者言語の教育にも役に立ち、今後カシュブ語の記述文法のみならず、学校文法などの参考になることが指摘できる。

特に他のスラブ諸語（ポーランド語、ロシア語、セルビア語、ブルゲンランドクロアチア語、スロヴァキア語など）との類型的論な比較研究は、カシュブ語を統語構造の観点から、スラブ諸語における位置づけを再考するだけではなく、他のスラブ諸語研究への直接的な足がかりにもなった。具体的には、本研究を踏まえ、報告者はチェコ語、スロヴェニア語の受動態に関して、これまで言われていた二つの受動態（se 動詞の形式および受動過去分詞の形式）だけではなく、いわゆる受容者受動態の存在があることを提示した（2010 年 4 月アメリカの第 17 回南スラヴ･バルカン言語国際学会にて発表)。

また、分析理論としては、言語類型論で一般的に知られている文法化理論を用いたため、一般論への貢献となったことも言える。

さらに、本研究を通じて、文法化理論および「所有性」の言語類型論研究で知られる Bernd Heine（ケルン大学名誉教授）を招聘し特別セミナーを開催する機会を設け、幅広い知見を得た。また本研究テーマに関連し、Romuald Huszcza 教授（ワルシャワ大学)、Andriy Danylenko 教授（ペース大学）の連続講演会も組織し、本研究の成果と合わせて、『スラヴ諸語における文法化 : 類型論および地域言語学からの視点』と題した研究論文集が 2010 年 6 月に刊行予定となっている。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

①野町素己、スラヴ語学者ライコ・ナフティガルの学術的貢献について、プリモシュ・トゥルーバルの生誕 500 周年およびスロヴェニアのEU議長国記念スロヴェニア

言語・文化学会、査読有、pp.58-71.2009 年
②Motoki Nomachi,On the Periphrastic Perfect in Kashubian Literary Language、西スラヴ学論集 11 号、日本西スラヴ学研究会、査読有、pp. 4-23.2008 年
③Motoki Nomachi,On the Recipient Passive in Kashubian Language、Јужнословенски филолог LXIV、Српска Академија наука и уметности、査読有、 pp. 273-281.2008 年

〔学会発表〕（計 4 件）
報告名//学会名の順で示す
①野町素己、スラヴ・ミクロ文語と社会主義体制：オンドラ・ウィソホルスキと「ラフ語」の諸問題//地域研究コンソーシアム・次世代ワークショップ「東欧地域研究の現在、そして未来への展望」東京大学、2010 年 1 月 10 日
②Motoki Nomachi,On the Recipient Passive in Kashubian //British Association for Slavonic and East European Studies Conference, Cambridge University,USA,2009 年 3 月 29 日
③Motoki Nomachi,О грамматикализации дативного пассива в кашубском языке//Международный научный симпозиум «Славянские языки и культуры в современном мире», Moscow State University,Russia,2009 年 3 月 25 日
④野町素己、アレクサンデル・ラブダ：人と業績（カシュブ語文語形成への貢献を中心に）//地域研究コンソーシアム・次世代ワークショップ「人文学的アプローチによるポーランドの地域主義研究－文学・芸術・言語を通して考えるポーランドの周縁地域－」東京大学、2009 年 1 月 10 日

〔図書〕（計 2 件）
①中島由美・野町素己、『ニューエクスプレスセルビア語・クロアチア語』白水社 2010 年刊行予定、150 頁
②野町素己「バルカン半島の諸言語とバルカン言語学」桑野隆他編『ロシア・中欧・バルカン世界のことばと文化』成文堂 2010 年刊行予定、323 頁

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）
名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：
○取得状況（計 0 件）
名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：
〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
野町　素己（NOMACHI MOTOKI）
北海道大学スラブ研究センター・准教授
研究者番号：50513256
(2)研究分担者
（　　）
研究者番号：
(3)連携研究者
（　　）
研究者番号：